

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2017年1月調査結果-

調査要領

- 調査期間 2017年1月10日～2月1日
- 調査対象 200社
- 回答企業 98社
- 回収率 49.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の1月の状況を見ると業況DIは、前月より5.6ポイント悪化の▲17.4。

2014年4月以来34ヶ月連続マイナス水準で推移している。

業種別では、建設業、小売業、サービス業の3業種において回復した。

※向こう3か月の先行き見通し業況DIは▲22.5と当月に比べ5.1ポイント悪化を見込んでいる。

業種別でみると、建設業、卸売業、サービスで悪化が見込まれている。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2016年 8月	9月	10月	11月	12月	2017年 1月	先行き見通し 2017年2月～4月
業況	▲15.4	▲15.4	▲17.3	▲12.9	▲11.8	▲17.4	▲22.5
売上	▲14.5	▲14.5	▲13.4	▲6.0	▲15.7	▲14.3	▲17.4
採算	▲18.3	▲18.3	▲14.4	▲11.8	▲9.8	▲8.2	▲14.2
仕入単価	▲13.5	▲13.5	▲20.2	▲21.8	▲25.5	▲29.6	▲28.6
従業員	29.8	29.8	35.6	24.7	25.5	30.6	25.5
資金繰り	▲1.9	▲1.9	▲5.8	▲7.0	▲6.8	▲7.2	▲12.2

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2016年 8月	9月	10月	11月	12月	2017年 1月	先行き見通し 2017年2月～4月
建設	▲25.0	▲20.8	▲16.0	▲13.6	0.0	▲9.1	▲27.3
製造	▲3.9	▲12.0	▲8.0	▲7.4	0.0	0.0	0.0
卸売	▲19.0	▲31.9	▲20.0	▲16.7	▲36.8	▲15.0	▲25.0
小売	▲25.0	▲28.6	▲53.3	▲25.0	▲43.7	▲50.0	▲37.5
サービス	▲5.9	▲27.7	0.0	▲5.5	11.7	▲25.0	▲31.2

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> ・特許技術が採用されるなど、忙しくなりそう。（設備工事） ・技術者、労働者確保に課題はあるが、補正および復興予算執行による発注量増に期待。（総合工事） ・消費税のアップを見据え、新築住宅の加速傾向が期待される。（建築） ・若手従業員の技術の向上心及び仕事に対する意欲が感じられない。故に賃金の上昇に結びつかない。悪循環に陥っている。旭川市内の民間の設備投資及び公共投資が極端に減少しているため地方で受注を多くせざるを得ない。（設備工事）・民間設備工事等の引き合いが減少している（設備工事） ・12月以降は昨年並みの仕事の受給があり多少の従業員不足が考えられる。センター作業員の不足（特に雑役女性）（建築） ・業界は公共工事減少のため意気が下がっている（設備工事）・議従者の人員不足（総合工事）
製造業	<ul style="list-style-type: none"> ・前年は製品価格の値上げに対する駆け込み需要があったため、対前年比で第一四半期は売り上げ減少の見通し。以降は平準化する見込み。（家具木材） ・業況の先行き見通しは今のところ前年売上高維持できる状況にある。円安による仕入れ価格の変動が気になるところ。（家具木材） ・農産物の高値が続いているためか、カット野菜の需要が増加。（食料品） ・就業者の流出対策として賃上げを行なっているが、3ヶ月毎に評価を見直している。職場環境の改善も就業者と話しあって急ピッチで進めている。（金属鉄工窯業） ・為替相場の先行きが不透明である（家具木材）・輸出に対する為替変動（金属鉄工窯業） ・昨年は忙しくあったが振り返ると売上高は前年度より落ち込んでいた。年明けから災害復興や農地改革等の話しも出ており動きとしては順調といえる。常に先行きの見えづらい業界であるが2020年までを勝負の年として営業力強化と社内の仕組みの見直しを進め、筋肉質な企業作りを進めるのが急務と考える。（金属鉄工窯業）
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・同業者の廃業により市場が若干広がったこと、災害特需で売上・利益とも前年を上回った。今後においても、この傾向は続きそうであるが大きな伸びは期待できない。（機械鋼材） ・業況的には昨年同等を思われる（機械鋼材） ・若手スタッフへの引きつきが次の何年かの大きな課題である。ガソリン代の値上げはダメージが大きい。（その他） ・今月の灯油の動きについては、価格の変動があるものの小幅なものとなる見通しです。（その他）
小売業	<ul style="list-style-type: none"> ・1月2日初売りとしたが、大型ショッピングモールが元旦初売りのため福袋が全く売れなかった。初売りからウインターセールするも来店数が伸びず、かなり厳しい状況にある。アウトレットモール・ネット販売のプライスOFF率が高く店舗販売での対策を考えざるを得ません。（衣服身の回り品） ・従業員の募集をかけても全く反応がない（その他）・原材料価格の動向を注視（食料品）
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・動物園人気低迷によりレジャー客が失速。外国人旅行客も昨年ほどの入込がなく全体的にビジネス客中心の動きから、稼働率は前年並みも単価下落から減収減益の見込み。（ホテル） ・インバウンドの予約状況が甘い。昨年を越える宿泊客数が取り込めるかが不明。（ホテル） ・正月明けの1週間は人の動きがあったが、中旬になり一気に客足が減少。特に夜の客数減が顕著。（飲食） ・板金塗装減少。冬型事故修理なし。車輛販売低下。（自動車修理） ・道南・札幌方面は観光客増。その他は前年並みの観光客数だが、工賃の値上がりや、物品の値上がりで売上は前年を下回っている。（クリーニング） ・冬期の観光シーズンの入込客数増に期待は大きい燃料価格の上昇懸念。内部的には4月からの来期に向けて構造改革、基盤強化を進めるにあたって人材の不足がネックになっている。（運送） ・雇用問題（ホテル） ・年明けから天候が荒れることなく、まあまあの人出であった。原油高により仕入れ価格が上がるのが心配。（飲食） ・若手技術者の確保が当面の課題である（その他）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI10.2 ポイント悪化、採算 DI4.9 ポイント悪化、仕入単価 DI2.3 ポイント悪化、資金 DI0.5 ポイント回復、従業員 DI2.7 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 9.1 ポイント悪化となった。業種別では、設備その他 10 ポイント回復、総合工事 22 ポイント、建築 20 ポイント悪化となった。民間設備工事等の引き合いが減少している。技術者の人員不足との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI16.0 ポイント回復、採算 DI16.4 ポイント回復、仕入単価 DI2.5 ポイント回復、資金 DI7.7 ポイント回復、従業員 DI6.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は横ばいとなった。業種別では、食料品 33 ポイント悪化、印刷出版 8 ポイント、家具木材 20 ポイント、金属窯業他 2 ポイント回復となった。為替相場の先行きが不透明という声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI11.1 ポイント回復、採算 DI5.8 ポイント回復、仕入単価 DI1.8 ポイント回復、資金 DI4.5 ポイント悪化、従業員 DI4.2 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 21.8 ポイント回復となった。業種別では、繊維 100 ポイント、食料品 21 ポイント、機械鋼材 20 ポイント、その他 17 ポイント回復となった。同業者の廃業により市場が若干広がったこと、災害特需で売上・利益とも前年を上回った。今後においてもこの傾向は続きそうであるが大きな伸びは期待できない</p>
小売業	<p>売上 DI6.3 ポイント悪化、採算 DI6.2 ポイント回復、仕入単価 DI2.5 ポイント悪化、資金 DI6.3 ポイント回復、従業員 DI12.5 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 6.3 ポイント悪化となった。業種別では、その他 6 ポイント回復、衣料品で横ばい、食料品 40 ポイント、自動車 25 ポイント悪化となった。1 月 2 日から初売りをしたが、大型ショッピングモールが元旦初売りのため福袋が全く売れなかった。初売りからウインターセールも来店数が伸びずかなり厳しい状況。アウトレットモール・ネット販売のプライス OFF 率が高く店舗販売での対策を考えざるを得ないとの声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI6.9 ポイント悪化、採算 DI18.8 ポイント悪化、仕入単価 DI14.4 ポイント悪化、資金 DI12.1 ポイント悪化、従業員 DI20.6 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 36.7 ポイント悪化となった。</p> <p>業種別では、運送 33 ポイント回復、クリーニング 100 ポイント、ホテル 25 ポイント、その他 25 ポイント、飲食 50 ポイント、整備業 67 ポイント悪化となった。動物園人気低迷によりレジャー客が失速。外国人旅行客数も昨年ほどの入込がなく全体的にビジネス客中心の動きから、稼働率は前年並みも単価下落から減収減益の見込みという声も寄せられている。</p>